

市制10周年に寄せて



仙北市長 門脇 光浩

平成17年9月20日、田沢湖町・角館町・西木村の3町村が合併し、仙北市が誕生しました。それから早いもので市制10周年です。この間、大きな災害や事故が相次ぎ、皆様にとっても辛い10年だったと思います。また、3町村の持つ恵まれた資源を生かしながら、一丸となって市政発展に努力してきましたが、目標の達成には未だ遠い道程を歩んでいます。

しかしながら、これまでの様々な試みが果実となり、次の10年に続く糧となったことも多くあります。福祉政策は格段に充実し、また産業面では市内企業の支援強化、仙北夢牧場やストロベリーファームの誘致に加え、さらに現在も新たな企業誘致に向けて準備が進んでいます。平成25年には念願の秋田県種苗交換会を開

催し、農林業の可能性を再認識できました。観光面では、田沢湖・角館観光連盟の発足と法人化、秋田美人100人キャンペーンは全国から注目を集めました。スキーW杯モーグル競技大会は、もう2シーズン継続して開催します。教育文化面では、角館小学校と神代小学校の整備を終え、今後は児童生徒の減少を見据え、学校再編も視野に入れなければと考えています。また、角館高校と角館南高校が統合し、同年夏の甲子園大会に初出場、市民を大いに勇気づけてくれました。国民文化祭は県下随一との評価をいただき、市内伝統文化の素晴らしさを全国に発信できました。

平成22年12月には、山梨県西湖でクニマス発見の奇跡が起こりました。その後、富士河口湖町との交流やクニマス里帰りプロ

ジェクトがスタートし、田沢湖湖底調査に着手するなど、田沢湖の再生に向けた動きが加速しています。

そして、国家戦略特区法「地方創生・近未来特区」の指定です。温泉と医療と農林業の規制緩和で、新しいまちづくりが既に始まっています。常に明日の開拓者となり、市民一人ひとりが知恵を出し合い、認め合い、訪れる人々を優しく迎えることのできる仙北市でありたいと思います。

市民の皆様には、ますますのご協力をお願いし、各地域が持つ豊かな自然環境、連続と受け継がれてきた歴史と文化を、次の世代にしっかりと引き継いでいくことをお誓い申し上げます。市制10周年のごあいさつとします。

魅力あるまちづくりを



仙北市議会議員 青柳 宗五郎

市制10周年にあたり、市議会を代表して、お祝いを申し上げます。

平成17年9月20日、それぞれに危機的な財政課題を抱える近隣の2町1村が合併しました。生き残りをかけ、観光産業を活かした北東北の交流拠点都市を目指し、仙北市が誕生したのです。以来、市民の皆様のご努力はもとより、関係各方面の格別のご指導・ご支援を賜り、10周年を迎えられたものであります。

さて、近年、全国的に急激な人口減少が、再び地方自治体の存亡さえも脅かし、国では、首都圏への人口一極集中を緩和するため地方創生と題し、積極果敢に推進

しています。地方創生では、独自の魅力あるまちづくりが求められ、その実践にあたっては、広い視野を持つ優れた人材が不可欠であります。

私達の地域には緑豊かな自然と、古くから優秀な人材の育成に着眼してきた歴史、先人が残した文化の香りが、色濃く残っています。

本市は、国内第1号となる地方創生特区の指定を受けましたが、これからの正念場です。地域が育んだ優秀な人材、豊かな自然、これらの固有資源が、明日への大きな礎となることを確信しています。私達は、過去と未来をつなぐ今を生き

ながら、同時に大きな使命を担っています。世代から世代へと先人の遺志を継承し、新たな仙北市を創造することが、私達に課せられた命題に他なりません。

これからも、一部の地域間の感情に流されることなく、俯瞰的により多くの皆様との対話により、議会と行政とが連携し、魅力ある住み良いまちづくりのために、邁進する所存であります。

最後になりましたが、本市発展のために、ご指導・ご協力を賜りました関係各位に、深甚なる感謝を申し上げます、併せて、皆様の益々のご活躍を祈念して祝辞いたします。